

=====
平成22年度 石川県教育工学研究大会
=====

主催 石川県教育工学研究会・金沢大学人間社会学域教育学類附属教育実践支援センター

1 開催日 平成23年3月6日(日)

2 会場 金沢大学人間社会学域教育学類附属教育実践支援センター

(〒920-1192 金沢市角間町 TEL076-264-5588)

3 日程

受付	挨拶	(1)自由研究発表	[昼食] 理事会 12:20~13:20	(2)全体会・学習会	
9:30	9:55 10:00		12:20	13:30	16:00

4 内容

(1) 自由研究発表 10:00~12:20

会場 教育実践支援センター2階 教育実践研究室

座長 村井 万寿夫(金沢星稜大学)

1) 活用型の授業を具体化するツールとしてのプロジェクター取付型電子黒板の活用

金沢市立小坂小学校 小林 祐紀

本研究の目的は、活用型の授業を具体化するためのプロジェクター取付型電子黒板の活用方法を示すことである。国語科の説明的文章の指導において活用型の学習を志向した授業を実施した。その結果、プロジェクター取付型電子黒板を協同的な学習の場面で活用することで、児童の高い学習意欲、焦点化された発表などが確認できた。発表者だけではなく、聞き手の児童からも内容理解の容易さなどの評価が得られ、有用な活用例が示された。

2) 3年生書写における筆づかひの定着のためのコンテンツ活用

内灘町立清湖小学校 飯田 淳一

小学校3年生の書写の学習で、筆づかひの定着を図るために、これまでの復習単元を設定し、デジタルコンテンツを活用した。自分で書きたい字を決め自分の手本を作り、書きたい字に必要な点画のデジタルコンテンツを選んで筆づかひを確かめながら練習させた。見るだけでなく手元の画面でコンテンツと一緒に筆を動かすことで、運動として点画のイメージをつかむことができ、ほとんどの児童の筆づかひに改善が見られた。

3) 「伝えたい」「学びたい」が学習者から生まれる、小学6年生英語学習活動の実践的研究
台湾との学校間交流学習による対話活動の促進

金沢市立浅野川小学校 西野 聡子

小学校英語学習では、教科学習における対話とは質的に異なる活動が要求される。この対話の差異を、一次的ことば・二次のことばの区分で捉え直し、授業外の発話活動の充実、国際交流学習の組み込み、という二つの手立てで、英語学習による話し手が伝えたい対話力向上を図る。これらの手立てにより、対話を行うための語彙力や文脈活用力が高まり、英語の学習時間だけでなく、他教科にわたり、児童同士による対話力が高まったという評価が得られた。

4) 大型テレビを用いたテレビ会議を通してのコミュニケーション能力の育成

金沢市立四十万小学校 余川 慶

文化的な交流が少なく、なじみの薄い遠く離れた国の子どもたちと、アトマイルの活動を通して交流する。テレビ会議という形で、自分たちの町や学校の紹介をしながら、質問したり答えたりするといったコミュニケーションを図る。また、会話の全てを英語で行い、これまでに学習している英語を使うことで、他国の人もコミュニケーションがとれることを体験する。お互いが用意したプログラムを見て、拍手を送ったり返事をしたり、温かい反応を返すというコミュニケーションをとることができた。この体験を通して、伝えたいことを短く簡潔に述べること、相手の話すことの内容をくみ取りながら聞くことが大切だと気づき、聞き手を意識して話したり聞いたりする力がついた。

5) Inception-Exchange-Expression ～「わらしべ長者」式でより豊かに～

金沢市立木曳野小学校 角納 裕信

昨年度、表現力の育成過程で ICT を活用しながら「発信→受信→交流」と対象を広げ、これらを繰り返す取り組みを行った。そうすることで、発信内容が豊かになり、さらに自信を深め、より大きな課題に対する意欲が湧き、良いスパイラルにつながる事がわかった。これを元に、今年度は違う学年・地域にも移植できるかどうか TV 会議を中心とし、アトマイルの絵を仕上げ、交流相手国との国際理解・交流を行った。その結果、TV 会議の回数を重ねるに連れてコミュニケーションの取り方も臨機応変に、より自然に反応を返すことになり、発信する事柄を積極的に作り出そう、生みだそうとする姿が見られるようになった。

6) 国際交流学習実現のための留意点 ～国際交流学習研究会を通して～

金沢星稜大学 清水 和久

小学校現場において国際交流学習に取り組もうとする場合には、たくさんの壁があり実現にこぎつけるのは困難であるというイメージがある。そこで国際交流に関する研究会を開催し、国際交流を行う参加者に対して理論的実践的なサポートを行ってきた。結果、研究会において、先行事例の紹介や今後の実践の見通しを提示すること、他の教師と悩みや工夫点を共有することがプロジェクトを遂行する上で重要であり、さらに広めるためには参加者同士の情報交換がさらに必要であることがわかった。

(2) 全体会・学習会 13:30～16:00

テーマ：「今、求められる学力とは」

会場： 教育実践支援センター2階 教育実践研究室

(1) 基調講演：加藤 隆弘 (金沢大学)

「石川県『学びの指針12か条』策定の背景について

～全国学力調査石川県分三年間の分析から～

(2) シンポジウム「学校現場での学力向上の取り組み」

コーディネータ：細川 都司恵 (金沢市立小坂小学校)

パネリスト： 中條 敏江 (白山市立湊小学校)

濱田 美恵子 (金沢市立四十万小学校)

八崎 和美 (七尾市立天神山小学校)